

「将来のなみえを担う子どもたちへのメッセージ」の修正について

浪江町復興ビジョン 中間報告での子どもたちへのメッセージ

※事務局作成

【アンケート結果を踏まえた各委員の想い】～提出いただいた感想より～

- ・災害の一番の被害者は子どもである
 - ・時間はかかっても、きれいな町になり、子どもたちの元気な声が聞こえるまちになることを願う
 - ・多くの想いは子どもでありながら声に出せずに我慢していた気持ちだと思う
 - ・子どもたちの様々な想いや願い事を1つでも多く叶えてあげたい、叶えるためにはどうすれば良いのかと強く思う
 - ・今、この子どもたちの「声」を大事にしないと長期にわたる浪江の復興は難しくなると思う
 - ・私たち大人が今頑張れているのは子どもたちが居るからこそ
 - ・子どもたちの悲痛な心の叫びが伝わってきた
 - ・出来るだけ早く、少しでも同じような浪江での生活環境に近付けてあげたい
 - ・子どもたちは町の再生に大きな期待を持っている
 - ・子どもたちの純粋な気持ちに何とか応えてあげたい
 - ・大人として、親として何が出来るかを考えてゆきたい
 - ・今の暮らしに馴染んでるように見えても子どもたちにとっては浪江（元の環境）より良い所はないと感じた
 - ・子どもたちが帰らなければ本当の意味での復興はないので浪江を想う気持ちを持ち続けてもらえる支援をしなければならない
 - ・今の生活に不自由のないようにしてあげたい
 - ・子どもたちが力強く生きるために心の支えとなる「ふるさとなみえ」を形が変わっても「守る」必要があると感じた
 - ・大人として夢や希望の持てるような手立てをしてあげたい
- ・・・等々、子どもたちへの想いをいただきました。

浪江町復興ビジョン提言（案）での「子どもたちへのメッセージ」